

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ドレミ児童リハビリセンター		
○保護者評価実施期間	R年10月15日		～ R6年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	R6年10月15日		～ R6年11月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	R7年1月17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの特性や病状を理解し、ひとりひとりに応じた適切なアセスメントに基づく計画に沿って、保護者との共通理解のもとに共感的な支援を行っている。	丁寧なアセスメント、プログラムの見直しなどを通じて、自立支援に向けた支援を行っている。	職員間の申し送りや連携の充実。保護者との情報共有の徹底。
2	看護職やリハビリ職といった専門職を基準以上に配置して、きめ細やかな対応を心がけている。	多職種共同により、専門性のある支援を行っている。	リハビリの充実を図る。
3	放課後デイ、生活介護、就労支援の多機能型施設であり、継続的な支援が可能である。	生活介護への移行時、就労体験の機会の提供など、慣れ親しんだ環境やスタッフのもとで、安心感をもってさまざまな体験ができるよう取り組んでいる。	就労体験の機会の拡大や世代を超えた交流の機会の確保。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	外部との交流の機会がない。	利用児童の重度障害や基礎疾患を鑑みて、感染対策を重要視しており、地域の子供との交流の機会が持てていない。	保護者のニーズの把握。感染対策を踏まえた上での交流の機会の提供。
2	取り組んでいる内容について、保護者に周知できていないことが多い。	連絡帳に記載しているが、不十分である。	多忙な保護者が簡単に情報を得られるよう、SNSの活用方法の改善を行う。
3			